

『NewLib (ニューライブ) 蔵書検索10年』

本学図書館の蔵書検索システムとして親しまれているNewLib (ニューライブ) の蔵書検索システムを導入して早や10年が経ちました。私も図書館に勤続して11年と半年になり、まさにNewLibと共に図書館の業務に携わってきたわけですが、今回はその10年を振り返ってみたいと思います。

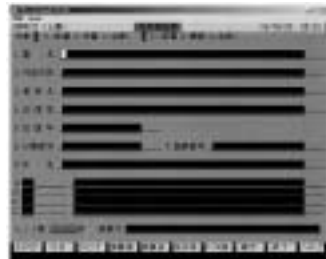
前図書館システムから現在の図書館システムに切り替えたのが1995年の8月でした。NewLib導入の決め手はそれまでの図書館システムの弱点であったフランス語やドイツ語など英語以外の言語に用いられる特殊文字の表示を克服したシステムであったからでした。また学術情報センター(現国立情報学研究所)の書誌データを使用し効率的にデータ作成ができることも大きな要素でした。画面自体は現在のデザインと異なり、青い画面に黒色の入力フィールド、白色の文字でした。LANやインターネットもまだまだ発展途上、検索端末の数も少なく、充実したものではありませんでした。ですがこの10年間でコンピュータの性能の向上、LAN&インターネットの発展がめざましく進み、そしてそれに併せてシステムのバージョンアップ、検索機能の強化、さらに館内端末数の拡充を図っていくことで現在は館内の検索端末はもちろん学内のインターネット端末、さらに自宅のパソコンや携帯電話からも蔵書検索が行えるまでになったわけです。

さて、秋学期を前に11年目を迎えたNewLibの蔵書検索をさらにバージョンアップしました。館内蔵書検索システムに関しては、資料データの表示を改良し、より見やすくしました。また、今までなかった「関連図書検索」などの二次検索ができるようになりました。これにより皆さんが検索した図書と関連した内容の資料や検索した著者の他の著作物などが容易に検索できるようになり、資料収集の幅を広げる大きな手助けになることと思います。さらにいくつかの検索をしたあとでひとまとめにその検索結果を表示できる「検索履歴表示」機能や貸出ランキング機能なども追加されています。検索画面自体は画面下部のボタンの色が違うだけで、使い方は今まで通りですので、違和感なく使っていただけることと思います。

もう一点大きく変化した点は検索スピードの大幅な向上が計れたことです。今までは「アメリカ」や「英語」といった漠然とした項目で検索すると検索結果表示に非常に時間が掛かっていました。そのために皆さんの中でも検索結果が返ってこず、イライラされた経験がある方も少なからずおられたことと思います。しかし今回導入した新しい検索システムでは大幅に検索スピードが向上したので、ストレスなく検索結果を得られるようになりました。館内端末検索でもインターネット検索でも同様に今までと違う検索スピードを体感できますので、是非一度体感してみてください。

本学図書館ではこの10年、図書館サービスの一環として検索システムの向上を計って参りました。これからも皆さんの利便性のさらなる向上をめざしてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(機械化推進委員会委員長 宮杉 浩)



〈10年前の蔵書検索画面〉



〈新しい蔵書検索画面〉